

登山月報

JMSCA 登山月報 第671号 令和7年2月15日発行



「三河三霊山の一つである猿投山からの白山遠望」撮影：愛知県山岳・スポーツクライミング連盟 監事 西山 秀夫



No.671

2024年シーズン表彰式	2
2005年新春懇談会	3
JMSCA クライミング体験キャンプ in 西条 supported by 日新火災	3
第15回全国高等学校選抜スポーツクライミング選手権大会 開催報告	4
第18回SKIMO日本選手権 黒部・宇奈月温泉大会報告	6
JMSCA 山岳自然の集い 2024 報告	8
Enjoy Climbing	10
神奈川県山岳連盟自然保護委員会のSDGsな活動	11
寄贈図書、JMSCA、表紙のことば	12

2024年シーズン表彰式



(公社)日本山岳・スポーツクライミング協会のスポーツクライミング2024年シーズン表彰式、山岳部門表彰式が1月11日(土)に東京・アルカディア市ヶ谷で開催された。蛭田会長の挨拶を皮切りに、まずパリオリンピック大会の報告が安井ヘッドコーチからなされた。続いて安楽宙斗選手に報奨金が手渡され、安楽選手、森秋彩選手から大会参加を振り返ってのスピーチがあった。

SKIMO日本代表活動報告が野村登山部長からなされ、パラクライミングに関して日本パラクライミング協会メッセージが紹介された。

JMSCAや各岳連の活動に永年ご尽力、貢献された方々に対して功労表彰が行われた。特別賞のTJAR実行委員会代表の飯島浩様からこれまでの取り組みや競技の様子について紹介いただいた。

山岳功労表彰

■加盟団体推薦表彰

相良 忠麿 (神奈川県山岳連盟)
大西 浩 (長野県山岳協会)
村上 美智子 (宮城県山岳連盟)
對比地 昇 (群馬県山岳・スポーツクライミング連盟)
増田 正治 (長崎県山岳・スポーツクライミング連盟)

■指導委員会推薦表彰

森 裕紀子 (京都府山岳連盟)
明田 通世 (北海道山岳・スポーツクライミング連盟)

■特別賞

トランスジャパンアルプスレース (TJAR) 実行委員会表彰後、野村登山部長から総括を報告した。

2024年シーズンに日本代表として特に活躍が顕著だったユース日本代表の6名、続いて日本代表の10名の選手に優秀選手賞が贈られた。



スポーツクライミング優秀選手表彰

安楽 宙斗 (JSOL)
森 秋彩 (茨城県山岳連盟)
野中 生萌
檜崎 智亜
檜崎 明智 (日新火災)
小俣 史温 (日本体育大学)
中村 真緒 (日新火災)
小武 芽生 (エスエスケイフーズ)
天笠 颯太 (東洋染工)
村下 善乙 (法政大学)
通谷 律 (佐賀県山岳・スポーツクライミング連盟)
長森 晴 (N高等学校)
濱田 琉誠 (神奈川県山岳連盟)
杉本 侑翼 (近畿大学工業高等専門学校)
藏敷 慎人 (兵庫県山岳連盟)
林 有沙 (石川県山岳・スポーツクライミング協会)

表彰後、町田スポーツクライミング部長から総括とこれからの大会、スポーツクライミングの展開について報告した。式典後、スポーツクライミングの選手と関係者による懇親会が催され、登壇した選手からオリンピックを終えての打ち明け話などが披露され、スポンサーの皆様を交えての写真撮影など和やかなひとときをすごした。



2005年新春懇談会



表彰式後には顧問参加会が開催され、歴代会長他10数名の方々にご出席いただき、協会の運営や財政問題について貴重なご意見をいただいた。

懇談会では、古賀副会長の開会のことばののち蛭田会長が主催者を代表して挨拶を行った。ご来賓の衛藤

征士郎氏、務台俊介氏、米山悟国立登山研修所所長よりご挨拶をいただき、顧問3人による乾杯により懇談が開始された。各岳連・協会やJMSCA役員、関係する企業、団体のかたがたを交えて年始の挨拶や懇談が盛大に催され、吉田副会長の閉会のことばをもってお開きとなった。



JMSCAクライミング体験キャンプin西条 supported by

日新火災

上記のイベントにSC普及委員会担当理事として2024年12月7日(土)愛媛県西条市石鎚クライミングパークSAIJOで開かれたイベントに参加してきました。

前日は古賀副会長が西条市役所を表敬訪問し高橋市長と面会をしました。

イベント当日は午前2、午後1クルール合計60名の子供たちがボルダーの体験を行いました。指導は日新火災のサポート選手檜崎明智選手・原田海選手・菊池咲希選手・中村真緒選手の4名が当たりました。



緊張気味の子供たちの前で指導者の4名は自己紹介をし、子供たちをクライミングの世界に引き込んでいきました。

初めはアップボードである入門課題で登ってもらいました。こちらの課題はすぐにクリアしてしまいました。

続いて会場を隣の競技場エリアに移し、体験です。

指導者が次のホールドを教え登らせています。

緊張していた子供たちも達成感があつたようで最後は笑みがこぼれていました。



日新火災の担当役員様とお話をさせていただき、「スポーツクライミングという競技は素晴らしい。これからもこのスポーツを応援していきたい。」というコメントをいただきました。

競技のすそ野を広げていくためには、このような地道な活動が大切であると再認識した次第です。

(記 佐藤 建)



第15回全国高等学校選抜スポーツクライミング選手権大会 開催報告

主催：(公社) 日本山岳・スポーツクライミング協会
(JMSCA)

共催：(公財) 全国高等学校体育連盟

会場：加須市民体育館

期日：予 選 2024年12月21日(土)

準決勝・決勝 2024年12月22日(日)

種目：リード

出場選手：42都道府県 男子122名、女子96名

来 場 数：21日530名、22日400名

■成績(個人)

男 子			
順位	氏名	所属	成績 (決勝)
1	濱田 琉誠	神奈川県・県立鎌倉高等学校(1年)	34+
2	藏敷 慎人	大阪府・箕面自由学園高等学校(3年)	31+
3	佐々木玲偉	福島県・福島成蹊高等学校(2年)	31+

女 子			
順位	氏名	所属	成績 (決勝)
1	小田 菜摘	大阪府・府立東百舌鳥高等学校(2年)	39+
2	村越 佳歩	茨城県・県立竹園高等学校(2年)	39+
3	麦島 心花	愛知県・中部大学春日丘高等学校(1年)	38+

■成績(団体・学校別)

男 子	
順位	学校名
1	三重県・近畿大学工業高等専門学校(杉本侑翼、小林隼翔)
2	岩手県・県立水沢高等学校(本明 佳、平瀬太誠)
3	佐賀県・県立多久高等学校(通谷 律、河端航大)



男子優勝の濱田琉誠選手



女子優勝の小田菜摘選手

女 子	
順位	学校名
1	静岡県・県立静岡西高等学校(永嶋美智華、伊藤未唄)
2	大阪府・常翔啓光学園高等学校(森本 明、大川花愛)
3	静岡県・浜松学芸高等学校(狩野 凧、鈴木奏羽)

JMSCA副競技委員長／大会副実行委員長 目次俊雄

JMSCA・全国高体連共催の大会として、年末恒例となったこの選抜大会は、コロナ禍により中止された2020年の第11回大会、個人戦のみ実施された2021年の第12回大会、準決勝を省略して予選と決勝26名の変則2ラウンド制で実施された2022年第13回大会と2023年第14回大会を経て、今年の第15回大会は、再び本来の3ラウンド制により実施された。男子の参加選手数が大幅に増えて過去最多となったため、選手受付開始時刻を7:00に早め(スタッフ集合6:30)、一日目の予選競技を8:30に開始し、終了19:30という長丁場を想定していたが、競技はスムーズに進行して、女子は16:00、男子は17:00までに無事終了した。出場選手のレベル差は年々縮まってきており、予選は、下部の安全性に配慮しながら上部は厳しく設定されたルートで実施され、男子はAルート4名、Bルート8名の完登者が出たが、女

子予選は両ルートともに完登者はいなかった。

二日目は、左側の壁で女子、右側の壁で男子の準決勝が行われ、下部から厳しいルートで男女ともに完登者はなく、男女それぞれ上位8名が進出した決勝は、男子が左側の壁から、女子は右側の壁から中央の壁に「渡る」ルートで行われ、ともに完登者はなかったが、男子は濱田琉誠選手、女子は小田菜摘選手が初優勝を果たし、大会史上初の個人三連覇のかかった永嶋美智華選手は6位となったものの、在学する県立静岡西高校が団体戦で初優勝を達成し、男子団体戦でも個人6位の杉本侑翼選手を擁する三重県の近畿大学工業高等専門学校が初優勝を果たした。個人男女優勝の二人は勝利インタビューでは優勝の喜びとともに、来年の国際大会出場を目標として語っていたが、今大会参加選手たちの中から国際大会、そして将来オリンピックで活躍する選手が一



男子入賞選手



女子入賞選手

人でも多く生まれることを期待したい。

第1回大会から選手引率や役員として競技運営に関わってきた立場としては、大会の成熟を感じながら、それを支えていただいている地元埼玉県、加須市、埼玉県山岳・スポーツクライミング協会(SMSCA)、加須市山岳連盟、全国高体連登山専門部の皆様の多大なご協力なくしてはここまで継続することはできなかったことを再認識し、加須市長の「クライミング愛」と田中名誉会長の変わらぬ熱意を目の当たりにしながら、大会運営を事前の準備から復旧作業まで支えていただいている

多くの皆様のご協力に、この場をお借りしてあらためて深く感謝申し上げます。

今回は42都道府県からの参加でしたが、不参加だった山梨、富山、熊本、香川、沖縄からも来年は出場され、全47都道府県からの参加が達成されることと、大会発足当時からの願いであったスポーツクライミングのインターハイ種目への採用が、関係者の皆様のご努力によって一日も早く実現し、この選抜大会とインターハイが高校生のクライミング活動の両輪となって発展していくことを心から願っています。

全国高等学校体育連盟登山専門部事務局スポーツクライミング担当／大会実行委員長 松尾浩志

第15回を迎える今年の大会では、ここ数年の感染症対策で見送ってきた準決勝が復活し、競技規則に沿った大会となりました。さらに参加人数が過去最高となり、開始時刻を早めて実施しました。競技時間が長くなることで、競技役員の皆さまにはご苦労をおかけしましたが、選手・引率者の皆さまにもご理解いただき、円滑に運営できたこと御礼申し上げます。

毎年言われることですが高校生クライマーの活躍はめざましく、今大会でも国際大会での上位入賞者が数多く出場し、鎬を削る大会でした。男子では2位から6位の選手がほぼ同高度の僅差で競り合っている中、ここ数年の国内外の大会で常に表彰台に上がっている濱田琉誠選手が2位以下の選手に3手差で優勝を勝ち取りました。女子では1位から5位が僅差の中、昨年の団体優勝に輝いた小田菜摘選手が1位同高度の選手をカウントバックで競り勝ち優勝を勝ち取りました。

今年はパリオリンピックで高校生クライマーが銀メダルを獲得し、さらに印象に残った年であったと思います。高校生の公式大会としてはリードの今大会が唯一で

すが、今後はボルダやスピードの大会、さらには全国高校総体にもスポーツクライミングが実施できることを進めていきたいと考えております。

学校の中での部活動の位置づけは教職員の勤務改善などにより近年変わりつつあります。スポーツクライミングは学校内に練習施設のある学校は極めて少なく、教員が直接指導している学校も少ない状況です。個人で活動している高校生も多く、今回の参加者の約3割は山岳部のない学校からの参加でした。高校内でこのスポーツを学校活動の一環として指導することにはまだまだ課題があります。とはいえ、これだけの高校生が活躍していることを踏まえ、今後も支えるとともに課題の解決をしていきたいと考えております。

最後に今大会をささえていただいた加須市、加須市山岳連盟、埼玉県、埼玉県山岳・スポーツクライミング協会、協賛企業、日本山岳・スポーツクライミング協会の皆さまに厚くお礼申し上げるとともに今後も高校生の大会として開催が継続できるよう協力をお願いいたします。

SKIMO

第18回SKIMO日本選手権 黒部・宇奈月温泉大会報告

SKIMOは2026年に開かれるミラノ・コルティナダンペッツォ冬季五輪の正式種目としてデビューする。競技名はSki(スキー)とMountaineering(登山)を略し「SKIMO(スキーモ)」と呼ばれて、今回で18回目となる日本選手権は富山県黒部市宇奈月温泉スキー場で4回目の開催となる。競技前日には黒部市芸術創造センターセレネで開会式があり、黒部市長をはじめとする地元有力者がご臨席し、大会開催の幕開けとなった。



温泉街をスタートする選手たち

19日はSKIMOの花形種目である長距離インディヴィジュアル競技が行われ、11~67歳の36人が出場。湯けむり漂う温泉街の総湯「湯めどころ宇奈月」前から選手がスキーを担いで一斉スタートする姿は本場ヨーロッパの大会を彷彿とさせる光景である。



急な斜面を登る選手たち

黒部・宇奈月温泉大会のコースは急斜面が多く、スキーで登るセクションではシール(斜面を登る滑り止め)が効かずに苦戦する選手が続出。青空が広がる中、白く化粧された温泉街と峡谷を望む雪山のなかで、選手たちはテクニカルなコースに難儀しながらも抜きつ抜



山頂へ向かう選手



シールを剥がす選手



滑降する選手 コースからは日本海が望める

かれつの激しい争いを繰り広げていた。

シニア男子は最長の5周するコース(距離12.3キロ、総標高差1407メートル)でトップ選手らは1時間半ほどでゴールした。シニア男子は日本選手権初優勝でマウンテンバイク競技でも活躍する宮津旭選手(長野県)、2位も同じくマウンテンバイクで活躍する平林安里選手、3位はインディヴィジュアルを得意とする藤川健選手(北海道)。シニア女子1位は日本選手権上位入賞常連の滝澤空良選手(北海道)、2位は日本選手権初出場のスカイランニングで活躍する林楓選手(長野県)3位は今シーズンから日本代表選手としてWCにも出場している青木聖美選手(山形県)。ジュニア男子の優勝は今後期待の滝澤漣選手(長野県)。今後の活躍に期待する若手選手の参加が増え、ユース男子は7名が参加。ユース男子優勝は笹川勇太選手(長野県)が昨年に続き2連覇。2位は日本選手権初出場のアルペン競技で活躍する石川太郎選手(埼玉県)。ユース女子の優勝は昨年に続き田邊美藍選手(山梨県)。

今大会はWC遠征のため、日本代表選手の参加が少なかったが、トップ選手の争いは観戦も盛り上がり見応えがあるものだった。参加選手の中には2005年から連続出場している選手もあり、67歳の最年長選手などそれ



フラワーセレモニーシニア男子



フラワーセレモニーシニア女子

ぞれSKIMOに魅了され出場している選手も多い。

国内ではまだまだ、競技人口も少なく認知度も低い
ため、普及が急務となっている。この競技の魅力をも
多くの人に伝えるため、広報担当では日本選手権直前に
SKIMOプレス発表会を開催する取組も行っている。そ
うした活動も定着しつつあるのか、初参加の選手も着実
に増えてきている。日本選手権大会が今シーズン国内の
初レースとなったが、今後各地で開催されるレースの参
加者が増えることに期待したい。また、今大会の開催に
おいては、ご協力いただきました地元黒部市をはじめ、
協賛企業様、富山県山岳連盟に心より御礼申し上げま
す。(SKIMO 委員 山田 宏)



ジュニア男子



ユース女子

セレネで開催された表彰式



表彰式 ユース男子

シニア男子結果

Rank	Bib	Name	Time	Pen
1	1	宮津 旭	1:31:50.37	
2	2	平林 安里	1:35:25.47	
3	3	藤川 健	1:42:52.32	
4	4	小寺 教夫	1:45:24.18	
5	5	岡 秀行	1:56:26.05	
6	7	萩原 悠己	2:02:30.91	
7	6	太田 嘉彰	2:23:03.61	
8	8	日比野 凌	2:24:19.00	
9	9	筑井 祐一	2:27:12.00	03:00
10	18	村本 宗将	2:33:13.00	03:00
11	12	津坂 朋宏	2:37:42.60	
12	11	佐藤 圭介	2:42:09.00	03:00
13	10	豊津 寛章	2:44:42.26	
14	15	鈴木 啓一郎	2:50:17.96	
15	17	川崎 義孝	2:57:06.78	
16	13	伊藤 秀明	2:58:12.23	
17	14	須田 忠明	3:25:59.53	
18	16	梅田 俊也	3:28:47.00	15:00
DNF	19	今藤 真一	イマフジシンイチ	

シニア女子結果

Rank	Bib	Name	Time	Pen
1	34	滝澤 空良	1:28:48.19	
2	35	林 楓	1:38:30.20	
3	31	青木 聖美	1:49:27.62	
4	32	池田 美貴	1:57:07.62	
5	30	堀部 倫子	2:12:13.21	
6	37	梅田 真希	2:28:26.17	
7	33	中山 就実	2:39:29.90	
DNF	36	レイ 裕美	レイ ヒロミ	

ジュニア男子結果

Rank	Bib	Name	Time	Pen
1	50	滝澤 遼	1:33:11.00	03:00

ユース男子

Rank	Bib	Name	Time	Pen
1	60	笹川 勇太	1:05:58.05	
2	63	石川 太郎	1:06:07.08	
3	61	藤井 駿社	1:23:19.00	03:00
4	62	山田 朝陽	1:24:30.47	
5	65	丸山 結舞	1:53:19.00	12:00
6	64	レイ アイザック	2:12:50.15	
7	66	今藤 恒栄	2:28:03.36	

ユース女子結果

Rank	Bib	Name	Time	Pen
1	67	田邊 美藍	1:47:56.00	06:00



シニア男子入賞者



シニア女子入賞者

JMSCA山岳自然の集い2024 報告

11月23日午前11時より「全国自然保護委員長会議および第48回山岳自然の集い」を埼玉県民活動総合センターにて開催した。昨年に引き続き対面とオンライン併用により、全国24の都道府県から51名の連盟・協会の自然保護委員長および自然保護指導員の参加があった。

会議の冒頭、委員長小高より2021年の委員長会議で全国自然保護委員会の地道な山岳環境保護・保全活動をアピールするために決議された「自然保護委員会のSDGsな活動」の『登山月報』リレー掲載は、沖縄県からスタートし現在No.670号（1月15日発行）の山梨県までの33県、途切れることなく続いていることが報告され、最終の北海道まで連載していくことが改めて確認された。続いて、参加の都合のつかない2県も含め事前に頂いた報告書を中心に、参加24県の委員長（もしくはその代理の方）から2023年度集い以降の活動報告を、特にこの一年の特徴的な事象を中心にお話を頂いた。

活動報告を概観すると、

①「登山道整備」に関し

まず全国各地から整備が必須の危険な登山道が多数存在するが、地権者との関係、資金や高齢化によるマンパワー不足などから山岳団体単独での登山道整備が困難な中、環境省や県、地元市役所・町役場、観光協会などの協賛・協力も得ながら、地域の山岳関係者や一般市民にも呼びかけて登山道整備と併せてゴミ拾い活動も広域的に行っている例、マスコミにも積極的に情報を提供し、山の自然保護活動についての啓発の場としている例などが注目される。また、整備方法として近年脚光を浴びている「近自然工法」の技術習得の研修会を実施したり、助成金を得てこの工法により域内の登山道整備を進めている例やヤシ製のマットを敷き詰める方法が効果的であるとの報告もあり、各委員会の「登山道整備」への関心の高さを今年も窺い知ることができた。

併せて、勝手道（踏み分け道）の踏み跡から雨水が侵入し山の崩落が起きないように立ち入り制限を行ったり、植生の保護を路肩倒壊の防止、道迷い防止と関連付けて主要登山道への標識の設置やレスキューポイントの整備を行っている例、強化化する台風被害により壊滅的な被害を受けた登山道を山岳関係者だけでなく被災住民をも巻き込んで整備し続けている例など、他の委員会、市民団体や行政との協働事業も紹介された。

②「植生保護」に関し

絶滅危惧種の群生地を行政に協力して調査している

例、県から委託された高山植物の調査を半年にわたって継続的に行っている例、外来種の駆除活動や自然歩道の除草作業を積極的に進めている例が紹介され、継続的に実践していくためには地域や行政と連携することが必須であることが再認識された。

③「観察会や研修会」に関しては

一般市民を対象に多くの委員会が開催しているが、参加者が伸び悩み、広報に苦慮している委員会、新聞社や県の事業の一環として自然観察会や植生保護の啓発を行っている例、連盟主催の登山教室に自然保護的の山登り講座を設けている例が紹介された。これらも行政や民間、他の委員会と協働、補完し合う関係で活動が継続されている。また、コーチ認定者の自然保護指導員登録を義務化して指導員の拡大を進めている例、研修会を単体の委員会ではなくブロック単位持回りで開いているとの報告は、現在JMSCA委員会が目指している資格要件の緩和とスキルアップのための研修制度の充実を目指す規約改正にも繋がる事業であり、今後とも全国に紹介していきたいと思う。

④ JMSCA委員会への提言として

全国の指導員向け講習会の企画や実施、特に近自然工法による登山道修復作業について講演やワークショップ、昨今の登山をめぐる話題について情報交換の場の創設、研修についての手引きの作成、シカ対策関連では補助金の創成や専門家を交えて食肉への活用促進などをテーマとした討論会、メガソーラーによる森林伐採禁止条例制定への提言、気候変動が山岳の植生等にどのような影響を与えているかを見聞し、それに対する対策を考えることができるフィールド研修付き全国集会の開催等々の要望を頂いた。いずれも着手には様々な問題もあるが全国的に取り組むべき課題であり、優先順位を精査して実行していきたいと思う。

ランチ休憩を挟んで、会議は「第48回山岳自然の集い」へ進んだ。野村善弥登山部長から「自然保護委員会の活躍に期待している」とのご挨拶を頂き、東京農業大学助教栗田和弥先生の「世界の自然と日本の自然：山の自然保護を考える」と銘打った基調講演と続いた。登山道に沿った雪田草原が破壊され、広範囲に裸地化や土壌浸食などが進行、自然環境の構造的破壊と荒廃が進んでいた新潟県巻機山で48年間に及ぶ景観を回復するためのボランティア活動「巻機山景観保全活動」を支える巻機山景観保全ボランティアズの理事としても活躍。木道敷設などによる歩きやすい登山道の整備、



全国委員長会議



栗田先生からの講義風景

在来植物の移植や播種による植生復元、土砂で埋まった池塘の復元などを実施、荒廃していた環境と景観は見事に回復してきている。こうしたご経験を踏まえ、世界と日本の自然環境の違い、巻機山での具体的な自然保護(景観保全)活動を紹介され、そして最後に「あなたが支える山を見つけてください」と締めくくられた。

休憩を挟んでプログラムは、今期JMSCA自然保護委員会が取り組んできた「自然保護指導員規程」および「細則」の改正についての解説に進んだ。

まず今改正の目的が、現在約900人強登録されている自然保護指導員の登録に至るプロセスや登録後の研修制度また更新条件等々について全国統一化を図ること、現行の資格要件にある「自然観察等に造詣が深い」という高いハードルを下げ、興味関心のある方は誰もが資格取得のための講習会を経て有資格者となり、その後スキルアップのための研修制度を充実させて、指導員の活発な活動を支援することにあることを小高より説明した。更に、改正に向けて委員会内に設置したワーキンググループ長の山本常任委員より、特に「資格」に関する規程 § 2 (2)、「登録更新」の § 5、資格取得のための研修制度につき新設した細則 § 2を中心に解説を行った。この改正案はJMSCAガバナンス委員会の審査、理事会での承認を得て来年度から施行される。今後とも機会を得て、全国の自然保護委員会へご説明したいと考えている。

次に現在JMSCAで進めている会員の資格管理のデジタル化と電子決済などを目指す「JMSCAフレンド」を自然保護指導員資格にも活用する取り組みにつき、委員会での担当である小島副委員長から説明した。残念ながら現在はまだ一部の登録者による試行段階であるが、実装したシステムが作動すれば可能となる様々な機能を、自身のフレンドによる「マイページ」を例に解説した。委員会で進めた講習会受講を必須とする規約改正も、このシステムが完成すれば全国各地の講習会や活動の情報が閲覧でき、参加申込や費用の支払いも行うことができスムーズな運用が可能となる。更に資格の登録・更新まで行えるという便利な機能であるが、まずは全国の指導員の初期登録を推進するために、再度全国の委員長に加盟する指導員の必要デー

タの収集をお願いした。

最後は前田主管理事からJMSCAの現状報告も含めたご挨拶を頂き、予定の議事を終了した。

翌24日、2コースでエクスカージョンを実施した。

筑波山コースには、栗田講師、地元茨城岳連からのサポートも含めて13名が参加。当日は筑波マラソン開催日で紅葉時期とも重なる。アクセス道路を含め大渋滞が予想されたため、つくば市と真壁町の市境の尾根道を往路とした。地図上には登山道の表示は無いが、標石や国有林の林班界標を辿れば迷うことはない。樹木を観察しながら、自然研究路まで全く人に出会うことなく辿り着いたが、大きな岩場周辺には「勝手道」が多数出現しており、かなりの入山者があるようだ。植生(特にカタクリ群落)の踏み付けが危惧され、春に是非検証したい。

一方の北本自然観察公園には、10名参加。野生の生き物が暮らしやすいよう、また来園者が自然に親しめるように整えられた公園で、荒川の河川敷につくられた「荒川ジオトープ」と共に重要な生息場所となっている。また、タカの仲間やキツネを「目標種」とし、それらが繁殖できる環境が適切に保たれるよう管理されており、里地里山の自然環境を体感した観察会となった。

なお、総会報告および関連資料は順次JMSCAのWEBページにUPしていきますので、ご覧頂きたいと思います。

(自然保護委員長 小高令子)



伊佐見 奈穂子

8月に入ってすぐ私はシャモニを離れることにした。知人の住むエクラン山塊を中心とした南部アルプスでのクライミングに合流するためだった。3か月フランスに滞在するならシャモニ以外の山や岩場も見たい、と考えていた私には絶好の機会だった。今回はその中でもエクラン山塊シアルーズ山とオートザルプ県の岩場ジラルド2つの対照的なクライミングの話をしたい。

～エクラン山塊での野性的!? なクライミング～

エクランってどんな山?と聞くと“sauvage!! (野性的、大自然!!)”とみんな口を揃える。ケーブルカーや登山鉄道により観光化されたシャモニとは違うぞという皮肉も含まれているような気がするが、いずれにせよ、より濃い山ができる予感がして胸が躍った。

今回のルート“Jour de Colère” (ED-, 7a, 400m)は「クラック好きの私にイチ押しルートがある」とフランス人の友人ロバンが勧めてくれた。モンブラン山塊に比べるとクラックが少ない山塊だけに絶妙なチョイスだ。

朝5時エルフロワッドの駐車場を出発。キャンプ場の周りの森を歩いているとそこら中にボルダーがゴロゴロ転がっていた。暗い中だったので足早に通過したが、このキャンプ場に滞在してボルダリングを楽しむのも人気のアクティビティの一つらしい。標高1,500mのキャンプ場から最初はスルス・ニエール川沿いを緩やかに登っていく。標高2,000mを超えたところから渓谷が陰しくなり滝が落ちていた。ここから取付きの3,100mまで傾斜が一気に増し、きついアプローチだ。途中ペルヴェ小屋の横を通りしばらく行くと、取り付きまで残り30分のところで雪渓になる。先行2パーティはアイゼンを付けてアプローチしていたが我々はノーアイゼン。陽が当たる前の雪面は硬く慎重にステップを切っていく。(アイゼン有無は毎年雪の状況によって変わる) 9時、取付きに到着した。

さて岩場は標高差400mの見事な花崗岩。1ピッチの長さは30～40mあったが、ボルトが打たれているためカムは1セットを持っていくことにした。1P目は私から、6aスラブからスタートしクラックを登っていく。ここ一週間ほどクラックから離れていたのて身体が喜んでいて感じた。5P目ロバンがリッジ上を上がっていく時、西を向いた岩にようやく陽の光が当たり始めた。7P目はハンゲ下を左トラバース。フォローの私をビレーしながら「次のピッチきつと君は気に入るよ!」とロバンの一言。前を見ると大好物のOW(オフウィズス=体が半身だけ入るワイドクラック)だ!思わずニヤつく。グレードは7a。ここからは見えないが、トポによると「上部のフェイスは2022年にフィックスロープが設置されエイド可能」とある。ならば行くしかない、と勇んでワイドに取付く。アームバー



◀シアルーズ山9P目
大好物のワイド



▶一緒に登ったロバン & シモンと

がばっちり効き10mのワイドはあっさり超えることができた。さて、ここからが壮絶だった。右側にあるボルトにクリップすると、ここからの右トラバースはバランシー、かつ露出感が半端ない。上部のホールドに手が届かず、ややクライムダウン気味にトラバースしていった。そして最後の3m、やるべきムーブはわかっているのに身体がついていかず30分近い奮闘の末、何とか完登。しかも、登り終えた後気づいたが、フィックスロープは撤去されていた。このあといくつかクラックとスラブを繋ぎ、最終ピッチのテクニカルなディエードルを登って16時半トップアウト。他ルートとの共通ラッペルへ移動し、懸垂で取付きへ下降した。休憩した後下山開始するも、朝のアプローチで足が完全に疲れ切っていて何度もズルッと滑る始末。駐車場には日が変わる頃やっと到着した。標高差1,500mのアプローチと400m合計12ピッチのクライミング、なんと充実した一日。こうして予想通り“濃い”山を存分に堪能したのだった。

～特徴的な岩質 ジャードでのクライミング～

シアルーズと一緒に登ったロビンとその友達シモンも合流してSous la griffe de Luciferルート(ED-, 6c+, 375m)を登りに来た。ジャードの岩場は道路から20分の好アクセスで500m規模のマルチが揃う。石灰岩ベースにフリント石や上部には礫岩が含まれる独特の岩質をもつエリアだ。まったく初めての岩にグレードも辛めと聞いていたのでビビリ気味の私。取付きで話し合った結果、前半を私、中盤をロビン、後半をシモンがリードすることになった。朝一慣れない石灰岩に緊張しながらスタート。この6bのグレードの感じ方で岩の品定めができると思っていたが、フリント石が入ることでよくフリクションが効いて登りやすい。これはイケそうだ! 5P目40m 6cはマイルドな垂壁から始まり最後の10mが手も足も悪く、ルーファイが難しかった。最後まで集中し、私の担当ピッチを終えて一安心。9P目、左壁に移った後の薄被りが核心だったが、被りを得意とするロビンは難なくクリア。11P目シモンに担当交代してすぐに6c+の核心。スラブスタートのカチ連打、しかも45mの長いピッチ。ここまでの腕のパンプがありワンテン入ったが、素晴らしい内容だった。続く12P目からははいよいよ上部の礫岩セクション。丸いツルツルした石ところが石灰岩にくっついていて不思議な岩質で、持つとポロっと取れそうで恐々登る。この岩場は北面のため

日が当たったのは最後の2ピッチ。そこまで快適に登ってきたがトップアウトしたときには夏の日差しに汗びっしょり。太陽カンカン照りの中1時間の歩きで下山し、ヒッチハイクで駐車場戻って3人そろって川にダイブした(笑)。

実はこの数日後、クライミング中に足を怪我し、予定を

1週間前倒して帰国することになった。エクランやシャモニでやり残したルートがある中、非常に悔やまれる。ただ一方、夏の間をじっくりフランスに滞在したことで、岩も人もたくさんのお出合いがあった。また来年か、やり残したルートを登りにフランスに戻ろうと思う。

神奈川県山岳連盟自然保護委員会のSDGsな活動

神奈川県山岳連盟自然保護委員会は、主に次の6項目の活動を行っています。

1) 県民協働型登山道整備、2) 自然再生、3) クリーン、4) 教育、5) 調査、6) JMSCA 他対外協力の各活動です。

1) 県民協働型登山道整備活動とは、神奈川県山岳連盟と神奈川県自然環境保全センターが協定を結び、2018年より丹沢山塊大山のヤビツ峠大山線(イタツミ尾根)とヤビツ峠菩提峠線(岳ノ台)の登山道維持管理補修活動を、ほぼ月1回、神奈川県岳連の皆さんと実施しています。

2) 自然再生活動は、神奈川県山岳連盟創立50周年の記念行事が発端となり、7年継続してきた清掃登山が発展し、2011年から「環境登山」と改称してクリーン活動だけでなく、山岳地(丹沢山麓)の崩落跡地の植生回復を目指した植栽や、荒廃登山経路の補修などを行っています。

24年に渡る環境登山の甲斐があり、二の塔・三の塔植栽地での植生の回復が著しく認められるようになりました。新たな候補地を見つけ取り組む予定ですが、現状の植生を見守り、点検保守として継続します。また、新たに秦野市里山ふれあいの森作り事業に協力し、2023年より、ヤビツ峠途中の浅間神社裏手、東西田原共有林組合の土地0.7ヘクタールにおいて、里山ふれあいの森作りボランティア活動を実施しています。放置され荒れた里山の林を、本来の眺望の回復と人の集える森として再生することを目指しています。終了した事業としては、森林づくりボランティア活動として清川村の県有水源林の約8ヘクタールにおいて、里山の森林回復を目的に森林づくりボランティア活動を2009～2019年にわたり、延べ99回、754人にて行いました。

3) クリーン活動は、丹沢大山クリーンピア21活動への参加として、丹沢クリーンキャンペーンへの協力のほか、ボランティア活動として山岳(丹沢他)の美化活動を実施しています。神奈川県山岳連盟、傘下の山岳協会、山岳会とJMSCA公認自然保護指導員、環境省自然公園指導員で行っています。

また、厚木市広沢寺の岩場滑岩(弁天岩)での清掃集会上、「広沢寺の岩場を守る会」の発足(2001年)以来毎年協力しています。クライミングゲレンデ周辺での清掃活動で、地元の方々と行っています。また、横須賀市の鷹取山での草刈り(横須賀市山岳協会による)も実施しています。

4) 教育活動は、「山の自然セミナー」として2011年から毎年1回、神奈川県立山岳スポーツセンターにて研修会を実施しています。それ以前は日山協自然保護指導員と環境省自然公園指導員や指導員を目指す者を対象にしていたが、同年より一般参加者も加えて、1泊2日で座学と実地研修を組み合わせた内容としています。

5) 調査活動は、世界環境デーに全国的に行われる、身近な水環境全国一斉調査に2012年から委員会として参加しています。相模川水系や金目川水系の地点にて採水、水温測定、試薬にてCOD測定を行っています。

6) JMSCAほか対外協力活動は、JMSCA自然保護指導員、環境省自然公園指導員の登録、研修等や、丹沢大山自然環境再生委員会、丹沢大山クリーンピア21、丹沢大山ボランティアネットワークの活動に参加しています。

これからも神奈川県屋根、丹沢山塊を中心にこれら諸活動を継続的かつ積極的に行っていきます。

(神奈川県山岳連盟自然保護委員長 芹沢尚敬)



登山道整備活動



環境登山



ふれあい森作り活動

寄贈図書

(公財)健康・体力づくり事業財団	「健康づくり」No.561	会報	(株)山と溪谷社	「駅からハイク」	寄贈本
(株)日本運動員新聞	「スポーツ産業新報」No.2456、No.2457、No.2458	新聞	新潟県山岳協会	「新山協ニュース」第375号	会報
日本トレーニング指導者協会	「JATI」第104号	会報	日本ヒマラヤ協会	「HIMALAYA」No.511	会報
市立大町山岳博物館	「山と博物館」2024冬号第69巻4号	会報	東京野歩路会	「山嶺」Vol.102 No.1139	会報
中華民国山岳協会	「中華山岳」季刊298	会報	おいらく山岳会	「山行手帖」No.782	会報
(株)ネイチャアエンタープライズ	「岳人」2024 February No.932	寄贈本	(公社)日本山岳会	「山」No.956	会報
(株)山と溪谷社	「山と溪谷」2025年1月号	情報誌	(株)北日本新聞社	「北日本新聞」1/19号・1/20号(SKIMO記事掲載分)	新聞
Corean Alpine Club	「山」2024年10月号 Vol.287号	会報	(株)毎日新聞社 写真部 猪飼健史	「毎日新聞」1/25(土)夕刊(SKIMO記事掲載分)	新聞
(特非)富士山測候所を活用する会	「芙蓉の新風」Vol.19(2025年1月1日発行)	会報	(一社)愛知県山岳・スポーツライミング連盟	「愛知岳連ニュース」第453号	会報
(公財)日本スポーツ協会	「SPORT JAPAN」vol.77	情報誌	(公社)日本ネパール協会	「会報」2025年春号 No.266	会報
(公社)東京都山岳連盟	「都岳連通信」奥多摩トレイル・安全データマップ	会報			



令和6年度第12回 理事会報告

- 日 時：令和7年1月9日(木)
13:00—16:15
- 場 所：JSOSビル3F会議室4及びZoom
- 出席者：蛭田会長、古賀・吉田各副会長、
小野寺専務理事、赤尾事務局長、野村・
町田各常務理事、小高(13:10から)・
栗田(13:15から)・小田部・佐藤・島田・
中島・中橋・西谷・畑中(15:30から離席)・
樋口・平田(14:45から離席)・前田・望月・
安井各理事 以上21名
佐久間監事、古屋監事 以上2名
- 欠 席：杉本・濱田各理事 以上2名

1. 開 会

2. 蛭田会長からの挨拶

理事の皆様、あけましておめでとうございます。本日は2月初の全国理事長会議、3つのジャパンカップと、新春懇談会について審議ができればと思います。よろしくお願いします。

3. 会議成立状況報告

理事数 開始時23名中19名出席(定款第33条、定足数=12名(1/2超))
監事数 2名出席

4. 議長選出

蛭田会長が議長を務める。(定款第32条)

5. 議事録署名人

会長及び監事(定款第34条)

6. 議題(注. 審議順に記載)

議案第1号 議事録の承認について(前回第11回の議事録について)

議案第2号 2022年度決算における理事の責任、決議文について

12月中に第11回の議事録と一緒に回覧、確認され承認済。

議案第3号 全国理事長会議について

小野寺専務理事が出欠表を画面から表示説明した。溝手弁護士にも出席を打診する。千葉県の理事長名を最新のものに更新する。

議案第4号 自然保護規定改定について

小高理事が、配布資料を基に、自然保護指導員の要件の変更と、研修制度の充実により、研修会の受講を必須とする、活動履歴の内容変更の説明をした。

望月理事が、文言(なお、また等)の使い方の提案と、変更の主旨の確認をした。

4月1日から施行の予定であること、また、上記の文言の変更をしたうえで、最終版として、理事会メンバーあてメールで最終承認を得る手順でよいか採決を取り、以下のように異議なく承認された。

反対0名、棄権0名、賛成21名
議案第5号 次年度JOC認定強化センター3拠点の推薦について

安井理事が、配布資料を基に、申請してきた4県の比較表を使用して説明した。SC強化委員会としては、合宿時の補助金の差及び、常任委員の意見から、3つの県を候補にすることを提案したいと説明があった。

外す県については、その旨を丁寧に説明するとともに、JMSCA認定の強化施設という方法も取れることを含め補足説明をする。また、SC部長が説明する。

反対0名、棄権1名(安井理事)、賛成20名
議案第6号 SC競技規則改定について

中橋理事が、配布資料を基に説明し、改定の主旨として、1. IFの規則変更に伴う年齢の区切りが変わること
2. 2ルートから4ルートに変わることに変更した背景を説明した。

採決を取り、以下のように異議なく承認された。

反対0名、棄権0名、賛成21名
議案第7号 令和8年度勲章及び褒章候補について

小野寺専務理事が、口頭で説明した。
*勲四等、勲五等に相当、北海道では、今年は小野倫夫氏が受賞した。
*候補者がいたら5月までに申請が必要と説明した。

議案第8号 2025年スポーツライミングユース日本代表選手選考基準について

ガバナンス委員会による内容チェックはまだだが、次回理事会承認では遅いので、早く承認を得たいので西谷理事が主旨を説明した。

*スピード競技に関わる選手選考基準
*直近の国内大会でよい成績をとったら強化選手外でも選考される。
*基準タイムが前回より早く(短く)なっている。

ガバナンス委員会による最終チェックをすることを条件に、当変更で問題がないか採決し、以下のように承認された。

反対0名、棄権0名、賛成20名
議案第9号(追加) 月報の配布方法の改善について

前田理事が、画面から以下の内容の提案を説明した。

アンケートの結果として回答のあった38県中、27県(約75%)が、PDF化されるならば、配布を廃止してもよいが、HPに掲載したタイミングで、その旨の連絡メールが欲しいと要望があった。

1. 岳連から受領した返信に基づいて、不要の分の配布をやめる。

2月配布分から約1750部減。

2. 顧問・参与・個人購読者向けに、"配布

申込書"を送付し、意向を確認後にやめる、継続するかを判断する(対象340名)。

3. 公共機関、報道機関、外部団体等への対応としては、従来どおりの配布を継続する。(対象400部)
その後、以下の意見が出た。

*月報発行をいったんすべてやめ、そのうえで、どうしても必要なところに印刷して配布する(配布先リストの管理を簡単にするため)。

*上記+各県スポーツ協会、JSPO、県警など、JMSCAが読んでほしいところに部数を絞って配布する(200部くらい?)

*配布中止については、月報に記事として掲載する(2月目途?)。

*一気にやるのではなくて、既存の読者に対して意向を聞いて、その結果に応じて対応する方が、ソフトランディングできるのではないかと。

*日本山岳会各支部、高体連関係についてはどうするか一考が必要。

*従来どおり送付継続する宛先のものと、配布先の意向により中止する宛先を選別し、各々についての対応案を作成する。今後は、短期的に次のことを行う。

1. 来たる顧問参与会で、当月報の配布方法の改善について説明をする。

2. 次回2月の理事会で、選別した宛先ごとにどうするか改善提案をする(前田理事)。

追加確認：BJC 2025への参加理事の確認
栗田理事が、蛭田会長、町田SC部長、畑中理事(スタッフとして参加)、島田理事、西谷理事が参加の意思表示をしたことを確認した。また、小田部理事(スタッフ)が、将来のスポンサーの候補と、JMSCAの幹部への挨拶が可能かの相談がされ、面会は3役(会長、副会長、専務理事)が対象となることが確認された。

7. 報 告

報告第1号 月次報告、キャッシュフロー
12月度の月次結果は出ていないので、説明は割愛する。

報告第2号 公認大会について

以下の3大会とも常務理事会で承認された。
・AKIYO's DREAM with RYUGASAKI
・全国中学生リード大会2025
・母恵夢カップ第5回スピードスターズ選手権大会2025

報告第3号 新春懇談会について

1月11日(土)、例年と同内容で実施。全体の人数は少なくなったが、前代議士、行政幹部、JSPO常務理事、M社副社長など、今まで参加しなかった方が、出席との意向を表明している。

報告第4号 事務局JSOS内移転計画について

第一候補2月22日(土)、第2候補3月22日移動の予定としているが、N社から、正式な移動可能日の返答がきていない。従来の2/3の広さで手狭になり、不便な部分も出てくると思うが、ご協力をお願いしたい。

報告第5号 国スポ大会について事前アンケートについて

小野寺専務理事が配布資料を基に説明した。

報告第6号 登山・SC指導員認定指導員承認について

報告第7号 夏山リーダー資格認定承認に

ついて

小野寺専務理事が、両件とも常務理事会で承認された旨伝達した。

報告第8号 スキーモオロニック選手選考規程について

小田部理事が、配布資料を基に内容を説明し、常務理事会で承認された旨伝達した。

報告第9号 役員派遣について

蛭田会長が配布資料を基に説明した。

8. その他

1. 12月4日付で山梨県山岳連盟望月理事長が発出した文書の内容を望月理事が説

明した。当内容は、JMSCA常務理事会、国スポ委員会にも伝達されている。

2. JPCAとの関係について

12月にJPCAから来た申し入れ内容と、その後の変更内容、NFとしてJMSCAに期待されていることの説明がされたのちに、現在有効な覚書の内容や、懸念事項の意見交換がされた。

3. スポンサーの現状について

町田SC部長が状況の説明をした。

以上
令和7年1月9日 記録 赤尾浩一



The poster features a scenic background of a mountain range with a river and a suspension bridge. A yellow banner in the center reads '無料でJMSCA (ジムスカ)フレンド 新規会員を募集中です!' (Recruiting new members for JMSCA Friends for free!). Below the banner, it says '初めて山に登る人も山のエキスパートを目指す人も、JMSCAに集まれ!' (Whether you are a beginner or aiming to be a mountain expert, gather at JMSCA!).

山で学んで、山を知ろう

無料でJMSCA (ジムスカ)フレンド 新規会員を募集中です!

初めて山に登る人も山のエキスパートを目指す人も、JMSCAに集まれ!

JMSCAとは、公益社団法人日本山岳・スポーツクライミング協会で山のエキスパート集団です。

JMSCAフレンドで学べることや知れること

- ① 全国のJMSCA 組織で開催する安全登山講習会
- ② 各種資格の取得
 - ・JMSCA および UIAA (国際山岳連盟) 公認夏山リーダー
 - ・日本スポーツ協会公認コーチ 1、2、3、4
 - ・自然保護指導員
- ③ 登山道の整備や自然保護活動
- ④ エキスパート登山家による体験記講座参加案内
- ⑤ スポーツクライミング競技会の開催情報
- ⑥ SKIMO (山岳スキー)の競技会・イベント開催情報
- ⑦ マイページより、登山歴を簡単に記録することができます。

JMSCA 加盟団体の皆様は、所属する都道府県山岳連盟 (協会) のデジタル会員証を表示できます。



新規会員登録はこちらへ



かすみちゃんのハイキング日記



表紙のこぼ



「三河三霊山の一つである 猿投山からの白山遠望」

猿投山の山頂から。初詣登山として令和 6 年 1 月 4 日にリモノ草駅から物見山を経て猿投山を縦走、猿投神社に初詣した。

当社の祖神にはヤマトタケルの兄の大碓命が祀られている。戦前の「明治八年教部省（文部省）の実地調査の結果、現在地を御墓所と確定」という墓所がある。

猿投山は霊峰のみならず、濃尾平野の東端に位置するので展望が良い。明治時代に一等三角点が置かれた。北側の県有林は日本山岳会東海支部が借り受けて「猿投の森」を整備中である。

愛知県山岳・スポーツクライミング連盟
監事 西山 秀夫

編集後記

JMSCA の新春懇談会および 2024 シーズンの表彰式に初めて参加しました。スポーツクライミング部門で優秀選手賞に選ばれた安楽選手と森選手も出席しており、テレビでしか見たことのない選手を間近で見ることができたのは特別な体験でした。詳細については JMSCA マガジン (<https://magazine.jma-climbing.org/>) でもご覧いただけます。新春懇談会も大盛況でしたが、事務局の皆さんは大変お忙しいようでした。本当にお疲れ様でした。

(松本光顕)

登山月報 第 671 号

定 価 110 円 (送料別)
 予約年間 1,300 円 (送料共)
 (毎月 1 回 15 日発行)
 発行日 令和 7 年 2 月 15 日
 発行者 東京都新宿区霞ヶ丘町 4 番 2 号
 Japan Sport Olympic Square 807
 公益社団法人
 日本山岳・スポーツクライミング協会
 電 話 03-5843-1631
 F A X 03-5843-1635

山岳
雑誌

岳人

がくじん
山と人、時代をつなぐ「岳人」

3月号
販売中

【特集】生涯登山

年齢を越えて山を楽しむ

モンベルのウェブサイト、全国のモンベルストアや書店にて販売中！

毎月15日発売 価格1,100円(税込)



▶年間購読が断然おトクです！

年間購読
通常特典

購読割引

送料無料

限定品プレゼント

さらに

モンベル
クラブ
会員さまには

モンベルポイント

5,000P プレゼント！

モンベルクラブ会員さまで現在購読中の方は、
次回継続時に5,000Pをプレゼントします。

年間購読特典

岳人オリジナル手ぬぐい



岳人の表紙絵を描く
中村みつを氏のイラストを使用！

限定
デザイン

岳人
カード

全国2,000ヵ所以上で
ご優待！



全国の温泉や山小屋など提携施設で
さまざまなご優待が受けられるカードです。

年間購読のお申し込みはこちらから！

<https://www.gakujin.jp/>



全国の
モンベルストア
でも受付中！

お問い合わせ
モンベルポスト



0120-982-682 / TEL 06-6538-5797

※フリーコールは携帯・IP電話からはご利用いただけません。

SDGsで、未来をつなぐ

三井住友海上は、安心と安全の提供を通じて、持続可能な社会の実現に取り組めます



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



SDGs (Sustainable Development Goals)とは

2015年の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に掲げられた包括的で持続可能な社会の構築を目指す「持続可能な開発目標」のことです。

持続可能な地球環境		安心して暮らせる社会		活力のある経済活動	
関連する主なSDGs	主な取組	関連する主なSDGs	主な取組	関連する主なSDGs	主な取組
 	- 再生可能エネルギーの普及支援 - 自然災害リスクモデルにもとづくコンサルティング	 	- 健康づくりの支援 - 先進技術を活用した利便性の高いお客さま対応	 	- 次世代モビリティ社会への対応（自動運転車等） - 災害に強いまちづくりの支援

立ちどまらない保険。

MS&AD

三井住友海上

三井住友海上は、レジリエントでサステナブルな社会※をめざします。

※外部環境にしなやかに対応する、持続可能な社会



日山協山岳共済会のご案内

**安全登山は登山者の努め、
山岳保険は義務。**

ご自身のために、ご家族のために。

日山協山岳共済会とは、

日山協山岳共済会とは公益社団法人日本山岳・スポーツクライミング協会(JMSCA)とアライアンスを組み、安全登山の指導・普及を図り、山や自然が好きな人たちのための互助と自立を目指す仲間の集まりです。山岳共済会は、日本の山岳遭難・捜索保険の草分けで、5万人の会員を持つ最大級の山岳共済です。年齢・既往症に関係なくどなたでも入会できます。

2023年 山岳遭難の概況

警察庁生活安全局生活安全企画課
(2024年6月13日)

発生件数	3,126 件 (前年対比 111件増)
遭難者数	3,568 人 (前年対比 62人増)
死者・行方不明者	335 人 (前年対比 8人増)



2025年版

日山協山岳共済会のしおり

WEBからもお申込みいただけます (www.sangakukyousai.jp)

